

■新しい『オアシス』が出発！



桜色の風のなかで、諏訪圏域挙げて御柱祭開幕を控えた本日4月1日、一般社団法人『諏訪圏域障がい者総合支援センター』による新しいオアシスの運営がスタートしました。小舟に乗った心細さと、自分たちで漕ぐ手応えの両方の思いを抱えての船出です。押し寄せる波を乗り越えながら、基幹相談支援センターとして今まで以上の役割を果たしていきたいと思ひます。

いま、スタッフ一同、長い間待ち望んだ新しい出発を胸に刻んでいます。今後とも皆さまのご支援、ご指導をいただきますよう心からお願い申し上げます。

■オアシスの新しい正副所長からごあいさつ

◎ 新所長より

4月からオアシスの一員となりました鈴木美和子です。

熊澤さんと私は、平成16年10月のオアシスのスターティングメンバーでした。(発足時、相談支援部門は『ぱすてる』という名称でしたが) 当時はまだ、“ケア会議”もそれほど多くなく、事業所の方に「ケア会議に参加して頂きたいのですが…」とお願いすると、「こんなに毎日忙しい中で、会議になんて出る時間はないわ！」と怒られたことを覚えています。

それから10数年が経ち、オアシスのスタッフも地域の相談員も増えて、毎日どこかでケア会議が開かれるようになりました。諏訪圏域の事業所もかなり増えて、支援の枠も大きく広がったと感じます。自立支援協議会も、行政、事業所、就労/医療/教育/療育機関等のたくさんの方々と、広く深く協議を重ねて、この地域の課題に取り組んでいく強いネットワークを拡大し続けています。

今は、色々な意味で厳しい時代に向かっているようにも感じますが、「安心して暮らしたい」という願ひは、いつの時代も、誰でも同じではないかと思ひます。誰もが安心して生活できる支援と地域づくりを目指して、地域の支援者の皆さんと一緒にがんばっていきたくて思ひます。どうぞよろしくお願ひ致します。

これからの10年、この諏訪圏域がどんな風に進んでいくのか、とても楽しみです。

◎ 新副所長より

4月よりオアシスの一員となりました、熊澤あき子です。

以前働いていた頃とは取り巻く環境が随分変わっていて、若干うらしま太郎の気分ですが、少しでも早く「今」をつかみたいと思っております。無事にアップデートできますよう、皆様のご指導をよろしくお願ひいたします。

◎ オアシス新マスコットキャラクターもよろしくお願ひします！

新しい出発を記念して、スタッフと一緒に働いて、オアシスを親しみやすい場所にしてくれるマスコットキャラクターが生まれました。デ



ザインは諏訪市社会福祉課の岩波美波さんです。皆さんで可愛がっていただきますようお願いいたします。

■一般社団法人『諏訪圏域障がい者総合支援センター』について

障がいがあっても自分らしくありたいと願う権利を守り、健やかに安心して暮らせる共生社会の創造をめざすこと等を目的として、昨年 12 月 2 日に一般社団法人が設立されました。代表理事：岩波豊明、理事：鈴木美和子・熊澤あき子の 3 名を中心に、設立時監事：原田正男さん・林義明さん、設立時社員：諏訪市社会福祉協議会で構成される法人です。何よりも「公益性」をめざして努力しますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

～法人ロゴマークに込められた願い～



青色はオアシスの水を、緑はそこに繁っている植物が光に向かって成長していくイメージを表しています。そのように、私たちが利用してくださる方の力の一助になりたいという願いが込められています。(デザイン:熊澤あき子)

■最近のトピック

♣ 信州パーキング・パーミット制度（障がい者等用駐車場利用証制度）がスタート！

県は4月20日から、障がい者や妊産婦などが専用駐車区画を使いやすくする信州パーキング・パーミット制度を開始します。全国では32府県が導入済みです。対象者（希望者）には、県内共通の専用駐車区画利用証を交付。協力施設は県が配布するステッカー（右図）で専用区画を表示します。県では、利用証の交付を進めるとともに、協力事業所を募っています。

問合せ・届け出先：県健康福祉部地域福祉課地域支援係 tel 026-232-0053



■自立支援協議会の活動から

♣ 成年後見センター設立に関する要望書提出



3月18日、自立支援協議会権利擁護部会では、社協、弁護士会、司法書士会、社会福祉士会、行政書士会、社労士会などと一緒に、総勢12名で諏訪6市町村を回り、広域連合長を含め各首長に要望書を提出しました。昨年5月の全体会議で決議して以来、部会ではさらに研究や視察を行うとともに各団体にも共同歩調を呼びかけ、この日の要望にこぎつけたものです。各マスコミも注目しており、行政の今後の取組みが注目されます。

■お知らせ

♣ 平成28年度オアシス水泳教室のご案内

オアシスでは、身体と知的の障がいをお持ちの方対象に水泳教室を行っています。障がい者スポーツの支援をしている、「さんすぽーと松本」から講師に来ていただき、ボランティアのサポーターさんと一緒に対応します。ご興味のある方は、利用先の事業所までお問い合わせ

ください。事業所の皆様よりオアシスへご連絡をお願いします。

○教室日程：(いずれも火曜日)

身体 (5/10、6/14、7/5、8/23、9/13、10/4、11/1、12/13、1/10、2/14)

知的 (5/24、6/28、7/12、8/30、9/27、10/25、11/22、12/20、1/24、2/28)

○開催時間：すべて午前10時～12時までの2時間 ○開催場所：すわっこランド

○参加対象：諏訪地域在住で、家族などのサポートだけではプールに入れない方

○募集人数：身体障害5～6名程度、知的障害10名程度(定員になりしだい締切)

○参加費：約10,000円(入館料と保険等)

○問合せ・申込み：4月15日(金)までに、オアシス(担当：渋谷・武井) tel 54-7713へ

♣ セイムハート ～ひきこもり家族会(概ね35歳までのひきこもり者の家族が対象です)

ひきこもりを否定すると、子どもを追い込んでしまいます。ひきこもりが問題なのではなく、問題があるから引き籠っていることに気づく必要があります。家族を通して、もう一度人と関わる術を知り、社会へと繋がっていくことが大切です。(開催日は変更もあり)

◆毎月第2金曜日 19:00～21:00

◆毎月第4土曜日 14:00～16:00(要予約)

場所：おかや総合福祉センター(諏訪湖ハイツ)

問合せ：セイムハート代表(山田 tel 090-2229-5689 ※18:00～21:00)

諏訪保健福祉事務所 健康づくり支援課 (tel 57-2927 ※8:30～17:15)

♣ 心の悩みや病気についての相談

精神科医による相談を行います。予約制ですので、前日までにお申し込みください。

◆こころの健康相談 ～いらいらする、眠れない、ひきこもり、発達障がい、依存症など～

毎月第1金曜日 14:00～17:00

場所：諏訪合同庁舎2階 第2相談室

◆思春期相談 ～学校に行けない、勉強に集中できない、誰かの視線を感じる、など～

毎月第4金曜日(12、3月は第3金曜日) 14:00～17:00

場所：諏訪合同庁舎2階 第2相談室 一概ね25歳まで

申込み・問合せ：諏訪保健福祉事務所 健康づくり支援課 (tel 57-2927)

♣ 4月のパン販売予定(諏訪市総合福祉センター1階就労継続支援A型事業所『BAITEN』)

はっぴーおじさん：1日(金)、8日(金)、15日(金)、22日(金)、29日(金)

こころ屋：4日(月)、11日(月)、25日(月)

いちやまマート：5日(火)、6日(水)、12日(火)、13日(水)、19日(火)、
20日(水)、26日(火)、27日(水)

パンDEチーノ：7日(木)、14日(木)、21日(木)、28日(木)

♣ 諏訪圏域福祉情報交換会へのお誘い

障がい福祉関係の制度や圏域の動向を知るため、有志が集まり情報交換を行っています。事務局は持たず、圏域の通所・入所事業所等を中心に約30か所にお声をかけ、2か月に1回

開催、毎回 10 人程度が参加しています。情報交換を進める中で、人と人のつながりの大切さを痛感し、諏訪圏域の**新任職員研修**、**中堅職員研修**を開催しています。ぜひ、多くの事業所・団体等の皆様のご参加をお待ちします。平成 28 年度第 1 回は次のとおりです。

4 月 19 日 (火) 16:00~ 場所: 諏訪市総合福祉センター 会議室 2
問合せ: 4 月担当 (第 2 この街学園 雨宮 tel 27-8974)



♣ 送迎に強力な助っ人登場!

この街支援センターに福祉有償移送車両として、新たな車両が加わりました。日本財団からの寄贈です。ケアキャブとも呼ばれ、車いす 2 台を含め 10 人を同時に移送することができます。課題とされている「送迎手段」の要望に対応できる社会資源の 1 つとして、活躍が期待されます。

■研修会・研究会・イベント情報 (詳しい内容は、各団体またはオアシスまで)

♣ 田中兄弟「ちぎり絵」二人展

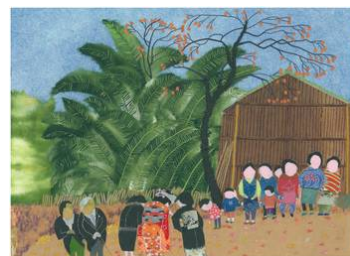
生まれつき聴覚に障がいのある、池田町出身の田中至さん(88)、等さん(86)兄弟が、画家原田泰治さんの絵をちぎり絵で表現した作品を展示しています。

4 月 17 日 (水) まで 9:00~17:00

場所: 原田泰治美術館 2 階 ギャラリーさざなみ

入館料: 大人 820 円 中高生 410 円 小学生 200 円 障がい者 (大人) 410 円

問合せ: 原田泰治美術館 (tel 54-1881)



♣ ドキュメンタリー映画『ぶかぶか』上映

横浜のパン屋「ぶかぶか」で働く障がいのある人たちと、地域の人たちが芝居をつくった。いつか「障がい」が「ぶかぶか」に変わるように・・・

4 月 2 日 (土) 14:00~17:00 (開場 13:40)

場所: 松本・浅間温泉 神宮寺 アバロホール (上映 2 時間 11 分)

トーク: 高崎明(ぶかぶか代表) & 宮沢あけみ(映画監督/佐久市出身)

入場料: 800 円 予約不要

問合せ: ぶかぶか (tel 045-453-8511)

♣ ガレージとーく『うつ病で、語る、つながるミーティング』

うつ病当事者や家族のピアサポートの場です。同じ体験を持つ人たちと出会い、不安な気持ちを吐き出し、病気に関する情報を共有することで、不安や孤独からの解放につながります。

4 月 17 日 (日) 13:30~16:00

会場: 塩尻市市民交流センターえんぱーく 2F 203 会議室

対象: うつ病の当事者 (家族、支援者も可) 定員: 8 名 (先着順)

参加費: 500 円 (会場費・運営費として)

申込み: NPO うつりカバリーエンジン (長谷川 tel090-4823-7494)



♣ **プレジョブの仲間募集中！** ～週に1日、1時間ちょっと、“ぷれジョブ”を～

生まれた地域で、よき市民として、自分のできることをして育ちあう活動です。現在までの



受入れ企業：茅野市役所、そばきり吉成、めん処 soy 屋！、茅野市図書館、玉川保育園、ファミリーマート茅野本町店、ザ・ビッグ茅野店、きたざわ鍼灸整骨院など

4月19日（定例会：毎月第3火曜日） 18：30～19：30

会場：茅野市文化センター 1階 第2会議室 一おちゃ募金（100円程度）一

参加申込等：ぷれジョブちの推進委員会（山室 tel 090-9664-1240）またはオアシスへ

♣ **長野県生活困窮者自立支援制度 事業推進セミナー**

基調講演：①生活困窮者自立支援法施行から1年～その現状と課題 ②生活困窮問題の本質とは～助けてと言える社会へ～ パネルディスカッション（困窮者支援で地域を創る！）

4月22日（金） 10：30～16：30

会場：松本市浅間温泉文化センター

参加者：300名 参加費：無料

対象：行政職員、障がい者総合支援センター職員、福祉関係施設・就労支援関係者等

講師：①厚労省社会・援護局 自立支援企画調整官 鎌木奈津子氏

②（一社）生活困窮者自立支援全国ネットワーク代表理事 奥田知志氏

申込み：4月15日（金）までに、県社会福祉協議会（tel 026-226-2035）へ

♣ **めざせ就職 ～訓練生募集！ ビジネスマナー・PCベーシック科（障がい者職業訓練）**

気持ちのいいあいさつをしよう～パソコンは初めてでも大丈夫～履歴書を書いてみよう

5月11日（水）～8月10日（水） （3か月間）

訓練時間：10：30～15：45（お昼休憩50分） 合計275時間

訓練場所：わーくピア岡谷勤労会館（岡谷市田中町3-7-28）

定員：10名（職安に休職登録している障がいをお持ちの方）

選考：4月25日（月）10：00～（予定）わーくピア岡谷勤労会館

問合せ：伊那技術専門学校（tel 0265-72-2464）

申込み：4月13日（水）までに、ハローワーク（諏訪 58-8609 岡谷 23-8609）へ

♣ **すいすい水泳教室 in まつもと（サンスポーツまつもと定期スポーツ教室）**

5月29日 6月5日、12日、26日 7月3日、24日 13：00～13：50

対象者：障がいのある方（小学生以上）

定員：20名（定員を超えた場合は抽選）

会場：松本市庄内屋内プール（松本市出川1-5-9）

参加費：無料 ※プール利用料（障がいのある小中学生20円、大人50円）が必要

その他：教室開催後の14：00～14：50のワンポイントレッスンは自由参加可。

申込み：4月28日（木）までに、申込書、健康チェック票、誓約書を郵送、FAX、持参。

問合せ：「さんスポーツまつもと」（tel 0263-88-6826）

♣ **ながのアビリンピック（長野県障がい者技能競技大会）参加者募集！**

障がいのある方々が、日ごろ培った技能を互いに競い合うことにより、職業能力の向上を図り、障がい者雇用の促進を図ることを目的として、競技大会を開催します。

7月23日（土）9：00～16：00

場所：Mウィング（松本市中央公民館）（松本市中央 1-18-1）

参加資格：県内在住、在勤で、平成28年4月1日現在15歳以上の健康な障がい者で主催者が認める者（複数種目への参加申込はできません）

実施種目：DTP、ビルクリーニング、オフィスアシスタント、ワード・プロセッサ、フラワーアレンジメント、製品パッキング、喫茶サービス、クリーニング（新）、電気機器組立（新）、パソコンデータ入力（知的のみ対象）

申込み：5月13日（金）までに、独立行政法人高齢・障害・休職者雇用支援機構長野支部へ郵送で申込み

♣ **アビリンピック（全国障害者技能競技大会）出場候補者募集！**

10月に山形県で開催される全国大会の参加選手は県大会の金賞受賞者を候補者としませんが、県大会未実施の種目については、別に出場候補者の募集及び選考を行います。

○身体・知的・精神障がい者部門（洋裁、家具、機械 CAD、義肢、歯科技工、データベース、ホームページ、コンピュータプログラミング、表計算）

○知的障がい者部門（縫製、木工）

○視覚障がい者部門（パソコン操作）

応募資格：県内在住、在勤で、平成28年4月1日現在15歳以上の健康な障がい者で、過去の大会等で受賞経験がない者等（詳しくはホームページ参照） 1人1種目

応募方法：5月13日（金）までに、県産業労働部人材育成課に郵送、持参により応募（企業、団体、学校等に所属する場合は、原則として推薦が必要）

■ **リレーすいそう 第34回 『Let's Throw!!（レッツ スロー!!!）』**

【障害者支援ボランティア アウト・ドア 代表 長井昭二さん】

「フライングディスク」って、聞いたことがありますか？ 40代前後の方は、「frisbee」といった方がピンと来るのではないのでしょうか？ 直径20～25cmのプラスチック製の円盤の名前です。

アウト・ドアの活動の一つとして、毎年7月頃に開催される長野県障害者フライングディスク大会の出場というものがあります。この大会の競技は2種類あります。最大7m離れたところに設置した90cmの輪の中に、ディスクを10枚投げ、何枚輪を通過するかを争う「アキュラシー」、とにかく遠くへディスクを投げる「ディスタンス」。これは3枚のディスクを投げ、一番遠くに飛んだディスクの距離が記録となります。



いずれも文字に書くと簡単そうに感じますが、これがそうでもなく、意外とコツが必要になります。毎年事前に講習会を開催し本番に備えますが、大会当日になるとその場の雰囲気緊張してしまい、なかなか練習の成果が発揮できないこともあります。

大会に出るからには良い記録が出れば、それは嬉しいものです。でも、一番大事なことは「楽しむ」ことです。大会を楽しむ。講習会を楽しむ。投げることを楽しむ。合間の仲間との交流を楽しむ。楽しむことができれば、良い記録も付いてくるのではないのでしょうか。

季節は春。暖かくなってきました。体を動かすには良い季節です。アウト・ドアでは今年もフライングディスク大会に参加予定です。興味を持った方がいらしたら、気軽に参加してみてください。Let's Throw!!

(次は、諏訪市社会福祉協議会の戸崎洋子さんをお願いします)

■すわーくらいふ便り（異動及びスタッフ構成のご報告）

◎【小松茂生】

先日、近所の公園で鮮やかな黄色の福寿草が咲いていました。春は卒業の季節と思っていたら今度は自分の番が巡って来たようです。

平成21年9月からすわーくらいふの一員に加えて頂いて、あっという間に6年半が過ぎ去ってしまいました。この間、就労支援をしてきたというよりも、むしろ障がい当事者の皆さんからたくさん教えて頂きながら成長させて頂きました。皆さん、今まで本当にありがとうございました。

今後の私は、法人内の異動により社会福祉法人清明会 就労支援事業部 Jumpin'（ジャンピンー富士見町）での就労支援員として業務を担当させて頂くことになりました。今までのように皆さんとお会いできる機会は少なくなってしまい寂しい思いですが、障がいのある方が安心して暮らせる日が一日も早く訪れることを願っています。

新年度は後任の秋山主任就業支援ワーカーを中心に、すわーくらいふもグンとパワフルに若返ります。わからないことや戸惑うこともあるかと思いますが、一步一步、着実に歩いていけますよう、是非皆さんからも助けて頂けたら、と思います。どうぞ宜しくお願い致します。

◎【秋山浩樹】 すわーくらいふのスタッフが変わりました。

4月1日から、諏訪圏域障がい者就業・生活支援センター「すわーくらいふ」のスタッフ構成が変わりました。よろしくお願いいたします。

センター長：大島 良彦

主任就業支援ワーカー：秋山 浩樹

就業支援ワーカー：田之畑 久美子

就業支援ワーカー（定着）：竹内 春菜

生活支援ワーカー：酒井 志麻

事務：筒井 やよひ

◎新人からひとこと

4月より就業支援ワーカーとして働くことになりました、竹内春菜です。1日も早く皆様のお役に立てるよう精一杯頑張ります。何卒よろしくお願い致します。

■オアシス情報

♣ 4月からのオアシス新体制について ~よろしくお願います~

所長/鈴木美和子 副所長/熊澤あき子 発達障がいサポート・マネージャー/茅野進
相談支援専門員 諏訪湖チーム（岡谷・下諏訪・諏訪）/笠原好美・大澤英恵・渋谷千秋
八ヶ岳チーム（茅野・富士見・原）/小澤路佳・熊澤あき子・中村利栄子・竹淵瑞希（兼地域生活支援コーディネーター） 事務/武井ゆかり・三井しず江 サロン/中村・三井
デイケア/小澤・大澤 水泳/渋谷・武井（その他：地区別担当を原則として全員で担当）

◎自立支援協議会 部会担当

療育支援部会/小澤路佳 地域生活支援部会/中村利栄子 就労支援部会/大澤英恵
精神障がい者地域生活支援部会/渋谷千秋・竹淵瑞季 権利擁護部会/熊澤あき子
相談支援部会/鈴木美和子・笠原好美

■退任にあたって

◎【木下久善】

平成 27 年 5 月からオアシスで地域生活支援コーディネーターとして活動させていただき、主に精神科病院に入院されている方の退院支援、地域の体制整備の業務に携わらせていただきました。

職名としては全県でも 4 人しか配置されていないコーディネーターの 1 人という事で、プレッシャーに押し潰されそうになりながらも、過去に地域移行支援に携わった方に業務の進め方を伺いながら無我夢中でこなした 1 年間でした。

地域の支援体制や地域移行の仕組み・環境をほとんど整えられずに退任する事に心残りではありますが、後任のコーディネーターに託したいと思います。

1 年間、医療関係者、地域の支援者、オアシス職員に支えていただきながら成長させていただき、貴重な体験をさせていただいた事に感謝しております。ありがとうございました。

◎【岩波豊明】

難しい問題を抱えた職場だと聞いていたので避けたい、でも長年世話になった職場へ少しは恩返しを、と揺れながら着任した 3 年前。現役時代とは違う難しさ、忙しさのなかで必死に今日までやってきました。

女性がほとんどの職場でしたが、お花見気分の時間はあっという間に去り、想像を超える事務量を献身的にこなす姿に衝撃を受け、彼女たちとオアシスのこれからを考えつづけた 3 年間でもありました。

いま、息切れしながらも、なんとかたどり着き、これからの方向が見えてきたことにほっとしています。荒涼、不毛の地と言われたオアシスが、その名のとおりの場所によみがえったこともうれしいことでした。見わたせば、自立支援協議会の活性化、多数の事業所の誕生、自主製品の目をみはる広がり、個性ある若い支援者の活躍など、諏訪圏域が新しい時代に入ったことを実感しています。

立ち上げた法人の運営は決して楽な道ではないと思いますが、たくさんの人の輪に支えられ、大きな可能性を持った諏訪の地で新しい未来が拓かれる一つのきっかけになれば、と思います。

末筆ながら、障がい福祉に携わる皆様のご活躍とご健康をお祈りし、退任にあたってのお礼のことばとさせていただきます。3 年間、本当にありがとうございました。

■4月の日程（自立支援協議会、オアシス）

- 4月 1日（金）オアシス開所式
- 11日（月）デイケア
- 12日（火）サロン de てくてく
- 15日（金）テルマ工会
- 18日（月）オアシス全体会

19日（火）サロン de てくてく、行政連絡会
25日（月）デイケア、療育支援部会
26日（火）サロン de てくてく、相談支援部会

■オアシスたいむ 30 『幸せを運ぶ奇跡のタクシー』

長野駅の客待ちタクシーの列のなかに、そのタクシーだけはいません。所有する100台ほどの車のほとんどが、毎日予約で埋まっているからです。

「中央タクシーでないと乗らない」「1時間待っても乗りたい」「街を走る中央タクシーを見るとほっとする」など、熱烈なファンに支えられています。

なぜでしょうか？ それは、とにかく「親切」だから。ある運転手は、迎えにいったところ、車に入らない電動車いすのお客でしたが、断ることなく1時間かけて分解して車に載せ、着いた病院で組み立てて乗せてあげたといいます。料金は車を走らせた10分間のみ。こうした対応を、どの運転手もしてくれるといいますから驚きです。

伝説のように語り継がれている話もあります。幼稚園から乗り、財布を落としたと困っている女性に、「お代はあとで結構です」と伝えた運転手。病院の受診をしている間に幼稚園まで戻って財布を見つけ、病院まで届けました。このときも運賃は乗車した分だけ。

じつは、この会社には、接客マニュアルは存在しません。これらのサービスは会社の指示ではなく、従業員が自主的にやっているのです。会社が従業員を大切にし、その従業員がお客様を大切にするのは、人出不足が深刻なタクシー業界にあって、離職率はかぎりなくゼロに近く、驚くほど仲がいい従業員たちの人間関係が、素晴らしいサービスの源といいます。それでいて、売り上げは県内一。大手をも上回る経営効率なのです。

長野オリンピックの折、破格の金額で全車借り上げ、という要請に一旦応じたものの、従業員たちの「オリンピック専用になったら、ふだん使ってくださっているお客さまはどうなるだろう」との気づかいが会社を動かし、高いキャンセル料を払ってオリンピックの会期中も地域の足に徹したのです。そのため、地元の人が乗ろうとすると中央タクシーしかなく、感激した人々でさらにファンが増えたといいます。

伝説はまだまだ続きます。東日本大震災発生直後、成田空港に12時間遅れで到着した高齢の女性は、「空港送迎サービス」で彼女を待ち受けていた中央タクシーの運転手に会い、あふれる涙が止まらなかったといいます。非常時だけにもういないだろうと思っていたタクシーが、お客の到着をなんと12時間以上も待ち続けていたのでした。